



タイの文化に触れて

橋本 莉紗

スワンナプーム国際空港に降り立ち、エスニックな香りと湿気に包まれながら研修が始まった。バスでの移動中、街は多くの車が行き交い、高層ビルがいくつも立ち並ぶのが見えたが、ふと手前に視線を落とすと景色は一変。スラム街が広がっており、到着して早々経済格差の現状を痛感した。

私は、研修を通して3つの学びがあった。まず、タイの方の暮らしについてである。彼らには「現在裕福でなくても来世で豊かになれるよう徳を積む」という考え方があり、中には毎月収入の多くを寺院でのお賽銭に費やす人もいう。日本人にとっては馴染みのない価値観かもしれないが、信仰心の強いタイでは珍しくないのである。

次に、私たちは同世代の高校生と交流する機会をもった。彼らは日本のアニメが大好きで、少しシャイでマイペース。そして常に笑顔の絶えない温かい子達であった。これは「微笑みの国」タイのゆったりとしたお国柄たる所以であろう。

最後に、JICA のタイでの取り組みについて多くの学びを得た。学校や施設の訪問等を通して、職員の方々が生き生きと誇りを持って活躍されていたのが印象的であった。そして、全ての支援活動に共通していたことは、決して日本の技術や考えを押し付けるのではなく「信頼関係を築くこと」であることを再実感した。

今回、JICA の皆様のご厚意による素敵な経験を糧に、私は今後も国際協力のあり方や意義を追究し続ける。より豊かな世界を目指して。